

環境基本計画に掲げる基本目標横断プロジェクトの取り組み

資料1-②

プロジェクト	担当部	担当課	28年度の取り組み状況（実績）			29年度の取り組み
			取り組み計画 (Plan)	取り組み内容・成果及び評価 (Do・Check)	今後の見込み、改善策等 (Action)	取り組み計画 (Plan)
①バイオマス産業都市がの構築	環境部	循環型社会推進課	・清掃工場の余剰電力（再生可能エネルギー）を市内の公共施設に供給する、電力の地産地消の推進	・余剰電力を、昨年度までの市内小中学校49箇所（51校）に加え、新たに図書館・本庁舎等の26公共施設に供給し、電力の地産地消を進めている。 ・平成29年度以降の小売電気事業者をプロポーザルで決定し、契約を締結した。	・余剰電力を、これまでの小中学校49箇所（51校）及び26の公共施設に加え、新たに公民館や保育園等35の公共施設へ供給し、電力の地産地消を推進していく。 ・電力の地産地消に関わる公共施設に節電支援システムを導入し、各公共施設の節電の具体化に役立てる。	・清掃工場の余剰電力（再生可能エネルギー）を市内の公共施設（110施設）に供給する、電力の地産地消の推進 ・節電支援システム導入による各公共施設の節電を推進
		環境部	バイオマス産業都市推進課	・清掃工場の二酸化炭素分離回収装置の稼動及び藻類培養企業への供給。 ・藻類培養の拠点地の整備のための準備。 ・筑波大学、佐賀大学との藻類培養及び利活用に関する共同研究協定の締結及び役割についての協議。	・平成28年8月26日に稼働式を行い、藻類培養企業への二酸化炭素の供給を開始した。 ・大和町の旧工業団地予定地を藻類培養事業予定地として造成するための手続きを実施した。 ・平成28年8月に両大学との藻類バイオマスに関する利活用協定を締結し、具体的な研究内容等について協議を開始した。	・今後、藻類培養企業の生産量の増大に応じて二酸化炭素の供給量を増やしていく。 ・藻類培養事業としては国内最大規模となる施設の建設にむけ、用地の造成工事に着手する。 ・藻類バイオマスの活用に関する研究施設を建設し、培養から抽出、加工、商品開発に関する一連の技術開発についての研究を始める。
	上下水道局 下水プロジェクト推進部	下水エネルギー推進室	・下水道革新的技術実証事業（B-DASHプロジェクト）による下水処理時に発生するバイオガスから分離回収したCO ₂ と脱水分離液を藻類培養へ活用する実証試験の検証及び取りまとめ。	〔検証結果〕 ・CO ₂ 分離・回収技術について、下水バイオガスから製品CH ₄ 、CO ₂ の分離効果や分離・回収性能の安定性を確認した。 ・藻類の実証研究は、生産に必要な窒素・リンを藻類で消費させることから、その削減効果を確認した。 ・可溶化技術は、実機及びラボ試験でのガス発生量増取効果の継続評価や、汚泥性状の把握、季節変動による影響の確認をおこなった。	・平成28年度の研究成果を踏まえB-DASHプロジェクトに関するガイドラインを共同研究体で取り纏め、有識者委員会（A検討委員会）で評価を受け公表の準備を行っている。 ・今後も、下水道資源の活用について共同研究体で決定されるテーマに沿って実証研究を継続していく。実証施設については国土技術政策総合研究所から佐賀市が借受け手続きを行い、新たに定める運用要綱に則って運用していく。 ・下水道革新的技術実証事業で得られた研究成果を基に、産業や雇用創出に繋がるような施策を関係者と協議し模索していく。（継続中）	・平成28年度の研究成果を取り纏めたガイドラインについては、下水道展に於いて国土技術政策総合研究所と共同研究体（㈱芝・㈱ユーグレナ）で発表する。 ・平成29年度からは自主研究に着手し、下水道資源の活用について共同研究体で決定されるテーマに沿って実証研究を継続する。
	環境部	循環型社会推進課	・回収した廃食用油から精製したバイオディーゼル燃料の活用 ・回収した廃食用油の新たな利用方法として、新型車両への利用に向け、民間業者とのタイアップによる燃料の高品質化等についての調査研究	・100%バイオディーゼル燃料を精製して、市営バスとごみ収集車等に使用した。使用台数：18台（市営バス5台、ごみ収集車等13台） ・100%バイオディーゼル燃料を高品質化する技術は、複数の先進事例があることから、高品質化技術の比較検討を行ったうえで、今後の事業化の可能性と事業化の方法等について調査・研究を行っている。	・清掃工場内の再生プラントでバイオディーゼル燃料を精製し、軽油を混入しない100%バイオディーゼル燃料として、市営バスやごみ収集車等に使用する。使用台数目標：15台 ・100%バイオディーゼル燃料を高品質化する技術は、複数の先進事例があることから、今後も、高品質化技術の比較検討を行ったうえで、事業化の可能性と事業化の方法等について調査・研究を行う。 例①：触媒を利用して軽油と同等質の次世代型バイオディーゼル燃料を精製する新技術 例②：廃食用油にメタノールを添加して精製する従来の技術に、触媒を利用して減圧蒸留することで高純度のバイオディーゼル燃料を精製する新技術	・回収した廃食用油から精製したバイオディーゼル燃料の活用 ・回収した廃食用油の新たな利用方法として、新型車両への利用に向け、民間業者とのタイアップによる燃料の高品質化等についての調査研究
	環境部	循環型社会推進課	・市内での食品リサイクルの促進に向けた情報提供や支援等の実施	・市内での食品リサイクル業創業に向け、事業者を公募により選定し、堆肥製造の実証実験と成分分析等を行った。 ・公募で選定した事業者とともに、市内の多量排出事業者等を対象として、生ごみのリサイクルをテーマとした「ごみ減量セミナー」を開催した。 参加者数：62名	・市内での食品リサイクル業創業に向け、公募により選定された事業者が行う実証実験に対し、成分分析や出口戦略等の支援を行う。	・市内での食品リサイクルの促進に向けた情報提供や支援等の実施

プロジェクト	担当部	担当課	28年度の取り組み状況（実績）			29年度の取り組み
			取り組み計画 (Plan)	取り組み内容・成果及び評価 (Do・Check)	今後の見込み、改善策等 (Action)	取り組み計画 (Plan)
②環境教育の推進	環境部 子ども教育部	環境政策課 学校教育課	1.佐賀市学校版環境ISO	<ul style="list-style-type: none"> ・全53校を訪問または書類で審査し、取り組みの状況を確認した。 ・要望のあった学校のISO認定校の看板を製作及び修繕をした。(19校) ・環境教育担当者研修会を実施した。 5/10 参加者:51人 ・環境教育指導者研修会を実施した。 8/8 参加者:21人 ・小中学校が清掃工場を見学する際のバス借上料の一部を助成した。(48台分) ・環境作品展を実施した。 応募:マイバッグ348点 ポスター368点 ・社会科副読本「くらしとごみ」を作成し小学4年生(附属小は3年生)に配布した。 ・環境担当教員に対する相談事業を実施した。(1名) ・表彰事業(ISO活動が盛んな学校を表彰した、3校) ・子ども環境活動発表を実施した。(2/1、4校が発表) ・「かんきょうぬりえ」を製作し、公私立幼児5才児に配布した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀市学校版環境ISO制度について、要綱等を変更し、手続き等の事務を簡素化することで取り組みやすくする。 ・小中学生を中心とした環境教育が推進されるよう、例年の取り組みを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表彰事業(ISO活動が盛んな学校を表彰する) ・希望するすべての学校に対してISO認定校の看板を設置及び修繕をする。 ・小中学校の清掃工場見学時のバス借上料の一部を負担する。 ・子ども環境活動発表を実施する。(2/14、3校が発表) ・「かんきょうぬりえ」を製作し、公私立幼児5才児に配布する。 ・子ども環境作品展を実施する。 ・各種研修会を実施する。
			2.佐賀環境フォーラム	<ul style="list-style-type: none"> ・15周年を記念した特別講演を開催した。 受講者:一般73人、学生74人 ・環境分野に関する講義を12回開催した。 受講者:一般・法人 延べ204人 学生延べ478人 ・ごみと自然環境をテーマに体験講座を各1回開催した。 受講者:一般延べ15人 学生延べ65人 ・現地見学会としてバイオマス産業都市さがに関する施設等を視察した。 参加者:一般6人 学生33人 ・地球温暖化対策の啓発として、平成打ち水夏の陣を開催した。 参加者:約100人 ・さが環境フェスティバルに出展し、紙のリサイクルについて啓発を行った。 総入場者数:14,223人 ・グループ型とインターンシップ型のワークショップを実施し、中間報告会及び最終報告会を開催した。 グループ型:4グループ インターンシップ型:3団体 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、体験講座、現地見学会、ワークショップは、継続して実施する。 ・打ち水イベントにおいて他団体と協力し、幅広い層への啓発を図っていく。 ・中間報告会を廃止し、代わりとして学生一人ひとりに公式ホームページへの活動報告の投稿を課すことで、学生の参加意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境分野に関する講義を12回開催する。 ・体験講座を2回開催する。 ・現地見学会を1回開催する。 ・打ち水イベントを開催する。 ・さが環境フェスティバルに出展する。 ・最終報告会を開催する。
			3.「トンボ王国さが」づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・トンボや水生生物などについて親子で学ぶことにより自然と共生する意識を醸成することを目的とした「トンボ教室」の実施。 ・「トンボ王国さが」を県内外に周知するため、トンボ写真コンクールを実施。 ・富士小中学校と連携した佐賀県準絶滅危惧種「ミヤマアカネ」の保全活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・とんぼ教室を実施した。 全5回 参加者:延べ130人 ・トンボ写真コンクールを実施し、入賞作品を市立図書館で展示した。 応募総数:630点(一般(県内)221点、一般(県外)312点、ジュニア97点) ・コンクール入賞作品を掲載したカレンダーを製作した。(1,000部) ・準準絶滅危惧種のトンボ「ミヤマアカネ」の保全活動として、9/6、10/4に草刈りを行った。(小学生は事前学習を2回開催、中学校は1回開催。) ・マスコミ:NHK佐賀放送局、佐賀新聞社、朝日新聞社 ・冊子「さがしのとんぼ」を改訂した。(1,000部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・トンボや水生生物など身近な自然について親子で学ぶことにより、自然と共生する意識を持ってもらうため、トンボ教室を実施する。 ・地元ミヤマアカネの保全活動に関心を持ってもらえるよう、引き続き富士小中学校を中心とした保全活動に取り組む。 ・「トンボ王国さが」を佐賀市内に広報することを目的に、トンボ写真コンクールを実施する。

プロジェクト	担当部	担当課	28年度の取り組み状況（実績）			29年度の取り組み	
			取り組み計画 (Plan)	取り組み内容・成果及び評価 (Do・Check)	今後の見込み、改善策等 (Action)	取り組み計画 (Plan)	
②環境教育の推進	環境部	4. 環境学習拠点施設(エコプラザ)における環境教育	循環型社会推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ問題が自分の生活と深く関わりのあることを実感してもらうための施設見学の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外の小学生を始め、高校、大学、地域団体、企業・行政視察等の施設見学を受け入れた。見学者数:6,627名 ・中学生の職場体験学習として、リサイクル工場での選別体験を受け入れた。受入人数:3名(3日間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、社会科学見学の小学生を始め、各種団体の施設見学を受け入れ、様々な環境問題が自分の生活と深く関わりのあることを実感してもらう。 ・今後も、中学生の職場体験学習を受け入れることで、施設見学の機会が少くない中学生への環境教育の一環とし、体験を通じた意識高揚を図る。 ・今後は、複数の施設見学コースを設定することでリピーターを増やし、見たことの実感から、その後の環境行動へとつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3Rの推進はもとより、バイオマスや自然環境など、様々な環境問題が自分の生活と深く関わりのあることを実感してもらうための施設見学の実施。 ・ごみ処理体験による意識高揚を目的とした、施設見学の機会が少ない中学生の職場体験学習の受け入れ。 ・施設見学による実感から、その後の環境行動につなげていくため、リピーターにも対応した、複数の見学ルートの整備。
		環境政策課 循環型社会推進課 バイオマス産業都市推進課 環境保全課	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習の拠点施設であるエコプラザの利活用促進と環境教育の推進を目的として、3Rの推進はもとより、自然環境や生活環境、バイオマスなど、様々な環境問題をテーマとしたイベント等の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「低炭素型社会」、「循環型社会」、「自然共生型社会」、「生活環境」など、多種多様な環境啓発イベントを実施した。 ・自然環境 :3講座 77名 ・省エネ対策:3講座 44名 ・3Rの推進 :3講座 125名 ・環境保全 :3講座 101名 ・バイオマス :2講座 86名 ・公民館における環境教育の推進を目的として、持続可能な社会づくりをテーマに「ESD環境教育セミナー」を実施した。参加者数:75名 ・「ごみの分別」で外国人が抱える悩みや外国と日本のごみ文化の違いをテーマとしたイベントを実施した。参加者数:16名 ・環境ビジネスの創出・販路開拓・異業種との連携等を目的とした環境ビジネスマッチングイベントを実施実施した。参加者数:65名 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な環境問題をテーマにした環境啓発イベントを次年度も実施することで、エコプラザの利活用促進と環境教育の推進を図る。 ・エコプラザにおいて、環境ビジネスマッチングイベントを実施することで、企業やNPO法人など異業種との連携・交流の場を提供し、ひいては環境ビジネスの創出、新市場開拓に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習の拠点施設であるエコプラザの利活用促進と環境教育の推進を目的として、3Rの推進はもとより、自然環境や生活環境、バイオマスなど、様々な環境問題をテーマとしたイベント等の実施。 ・エコプラザにおいて、企業やNPO法人など異業種との連携・交流の場を提供し、ひいては環境ビジネスの創出、新市場開拓に繋げていく環境ビジネスマッチングイベントの実施。 	
		循環型社会推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・エコプラザの再生ゾーンを中止に、3Rの推進と意識高揚を目的とした各種講座やイベント等の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコプラザの再生ゾーンにおいて、リユース品やリペア品の販売を行うとともに、3Rに関する講座やイベント(エコマーケット等)を開催した。 講座開催数:63回 エコマーケット開催数:11回 その他イベント開催数:2回 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、エコプラザの再生ゾーンにおいて、リユース品やリペア品の販売を行うとともに、3Rに関する講座やイベント(エコマーケット等)を開催し、参加者の意識高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコプラザの再生ゾーンを中心に、3Rの推進と意識高揚を目的とした各種講座やイベント等を実施 	

プロジェクト	担当部	担当課	28年度の取り組み状況（実績）			29年度の取り組み
			取り組み計画 (Plan)	取り組み内容・成果及び評価 (Do・Check)	今後の見込み、改善策等 (Action)	
②環境教育の推進	環境部	環境政策課	・市内全自治会を支部とする「佐賀市環境保健推進協議会」が行う環境美化やごみ減量などの実践活動や啓発活動への支援。	・生活環境の保全及び浄化、健康で住みよいまちづくりに寄与することを目的として活動する「佐賀市環境保健推進協議会」の各支部に対して補助金を交付することにより、地域住民が地域の実情に合った環境保全活動や健康づくり等の活動を実践した。 ・協議会全体の活動として、環境・ごみ・健康づくりに関する視察研修を実施した。参加者：3コース計 106人 ・環境保全、ごみ対策、健康推進の各部会において、活動の実施や企画を行った。 部会活動：6回 参加者：156人 ・11/7佐賀駅周辺の路上喫煙禁止キャンペーンに参加し、路上喫煙禁止区域の普及啓発を行った。参加者：9人 ・2/1佐賀市環境保健推進大会を開催し、環境保全や健康づくりへの貢献者の表彰とごみ減量に関する講演会を行った。参加者：674人	・今後も継続して、環境保全等に関する事業を実施予定。 ・視察研修の実施。 ・各部会において、活動を実施する。 ・佐賀市環境保健推進大会を開催し、環境保全や健康づくりへの貢献者の表彰と環境保全に関する講演会（予定）を実施する。	・市内全自治会を支部とする「佐賀市環境保健推進協議会」が行う環境美化やごみ減量などの実践活動や啓発活動への支援。 ～以下、29年度の具体的な取り組み～ ・先進地視察研修（8月） ・環境保全、ごみ対策、健康推進の部会活動（各2回） ・佐賀市環境保健推進大会（2月）
		環境政策課	・ラムサール条約登録湿地「東よか干潟」を活用した環境教育 ・ラムサール条約湿地を活用した環境教育の機会として、東よか干潟ラムサールクラブの活動運営。 ・市立小中学校による東よか干潟見学のバス借上げ料の助成。	・市内小中学生を対象として、東よか干潟ラムサールクラブ運営し、10回の活動を行った。（クラブ員：小4～中3の33人、地元大人10人） ・4/30 開講式、オリエンテーション ・5/7 発足式、干潟の生き物観察（東よか干潟） ・6/25 有明海の生き物や環境について視察学習（佐賀県有明水産振興センター、鹿島市干潟展望館） ・8/20 佐賀県ラムサール条約湿地登録1周年記念イベント参加、交流活動発表（佐賀市文化会館） ・8/27 有明海クレーンアップ・アクトクリーン（清掃活動）参加、漂着ゴミ調査（東よか干潟） ・11/12 鹿島市ラムサール条約湿地登録1周年記念イベント参加（鹿島市） ・11/27 大分県九重町のタゲ原湿原で活動する子ども達との交流（東よか干潟） ・活動のまとめ（東与賀農村環境改善センター） ・また、クラブ員の中から国内外の交流イベント2回に参加した。 ・7/26～7/30 2016東アジア子ども湿地保全交流（3人、韓国安山市） ・8/5～8/7 KODOMOラムサール湿地交流（3人、北海道浜頓町） ・小中学校が東よか干潟を見学する際のバス借上げの一部助成を行った。（5校） ・来訪児童数：約400人 ・見学時児童の事前学習のための子供向けパンフレット等の提供や、希望があれば現地にボランティアガイドを配置し、東よか干潟の価値や魅力を分かりやすく解説した。	・引き続き、東よかラムサールクラブの活動を実施する。東よか干潟の自然環境のすばらしさを理解するとともに、佐賀の自然環境についても学習する。また、他の湿地の子ども達との交流をより一層促進する。 ・平成29年度も平成28年度の活動をベースとして、新たに東よか干潟の底生生物調査を行い、次年度以降の活動定着を図る。 ・現在対象者を市内の小学校4年生から中学校3年生までとしていることから、中学校卒業生の受け皿（活動の場）の設置等について関係者（講師、佐賀大学）と協議を進める。 ・引き続き、東よか干潟見学のバス借上げ料の助成を行う。 ・雨天時でも学習できるプランの検討や現地ガイドの手配の充実など、学習環境の更なる充実を図り、利用校の増加を目指す。	・東よか干潟ラムサールクラブの活動を行う。 ・野鳥観察、底生生物調査（東よか干潟）（5月） ・佐賀の自然環境について学ぶ（県立宇宙科学館）（6月） ・干潟体験・湿地の恵みの実感（東よか干潟）（7月） ・KODOMORAMサール湿地交流（創路湿原）（8月） ・大分県九重町のタゲ原湿原で活動する子ども達との交流（タゲ原湿原）（8月） ・有明海クレーンアップ・アクトクリーン（清掃活動）参加、漂着ゴミ調査（東よか干潟）（8月） ・湿地保全活動（東よか干潟）（10月） ・KODOMORAMサール湿地交流（荒尾干潟）（11月） ・アジア湿地シンポジウムにて活動発表（東与賀文化ホール）（11月） ・活動のまとめ（12月） ・東よか干潟見学のバス借上げ料の助成を引き続き行う。
		環境政策課	・清掃工場の余剰電力を市内の公共施設に供給する、電力の地産地消についての広報活動の実施	・平成28年度より余剰電力を新たに供給している26の公共施設に、ポスター・ステッカーを掲示し、電力の地産地消の取り組みとクリーンエネルギーの周知、啓発を実施した。 ・平成29年度以降の小売電気事業者をプロポーザルで決定し、今後の電力の地産地消についての環境教育を推進する体制を整えた。	・ポスター・ステッカーを改訂し、小中学校49箇所及び26の公共施設、さらに29年度から新規追加予定の公民館等（35公共施設）に掲示し、電力の地産地消の取り組みとクリーンエネルギーの周知、啓発を実施する。 ・電力の地産地消学習教材をイベント等で利活用し、ごみの分別や再生可能エネルギーについての体験学習を実施する。 ・地産地消の見える化システムを清掃工場に設置し、来館者への電力の地産地消の取り組みの周知を行う。	・清掃工場の余剰電力を市内の公共施設に供給する、電力の地産地消についての広報活動及び環境教育の実施
		環境政策課	・日常生活で気軽にできるごみ減量について実践してもらうことで、ごみ問題を身近なものとしてとらえてもらうための「高校生エコチャレンジ」の実施。	・市内の私立高校を対象に、日常生活で気軽にできるごみ減量について、任意の2週間取り組んでもらう「高校生エコチャレンジ」を実施した。 参加者数：1, 109名（私立高校5校、県立高校1校）	・今後とも、市内の高等学校に通学する高校生を対象に「高校生エコチャレンジ」を実施することで、ごみ問題を身近なものとしてとらえてもらう。	・日常生活で気軽にできるごみ減量について実践してもらうことで、ごみ問題を身近なものとしてとらえてもらうための「高校生エコチャレンジ」の実施。
環境部	環境政策課	・地域や事業所等において、3Rの推進やエネルギーの有効活用など、市の取り組みを紹介する出前講座等を実施した。 開催回数：13回 ・生ごみの堆肥化や雑紙の分別による減量方法について、体験型講座や相談・サポートを実施した。 講座開催回数：79回、サポート実施回数：380回 ・市民の環境意識の高揚を図ることを目的として、国が推進する地球温暖化対策の国民運動「COOL CHICE」を含めた地球温暖化対策に関する講座を実施した。 講座開催回数3回	・地域や事業所等において、3Rの推進やエネルギーの有効活用など、市の取り組みを紹介する出前講座等を実施した。 開催回数：13回 ・生ごみの堆肥化や雑紙の分別による減量方法について、体験型講座や相談・サポートを実施した。 講座開催回数：79回、サポート実施回数：380回 ・市民の環境意識の高揚を図ることを目的として、国が推進する地球温暖化対策の国民運動「COOL CHICE」を含めた地球温暖化対策に関する講座を実施した。 講座開催回数3回	・今後とも、地域や事業所等を対象とした出前講座を実施することで、様々な場所での環境教育の場の提供に努める。	・地域や事業所など、様々な場所での環境教育の場の提供を目的とした出前講座の実施。	
	環境政策課	・環境教育の具体的な方法等について協議する環境教育連絡会議の開催。	・環境教育関係課で構成する環境教育連絡会議を開催し、環境教育の具体的な方法等について協議しながら各種環境教育事業を実施した。 開催回数：5回	・環境教育連絡会議を随時開催し、今後の環境教育のあり方や進め方等についても協議していく。	・今後の環境教育のあり方や進め方等について協議する環境教育連絡会議の開催。	